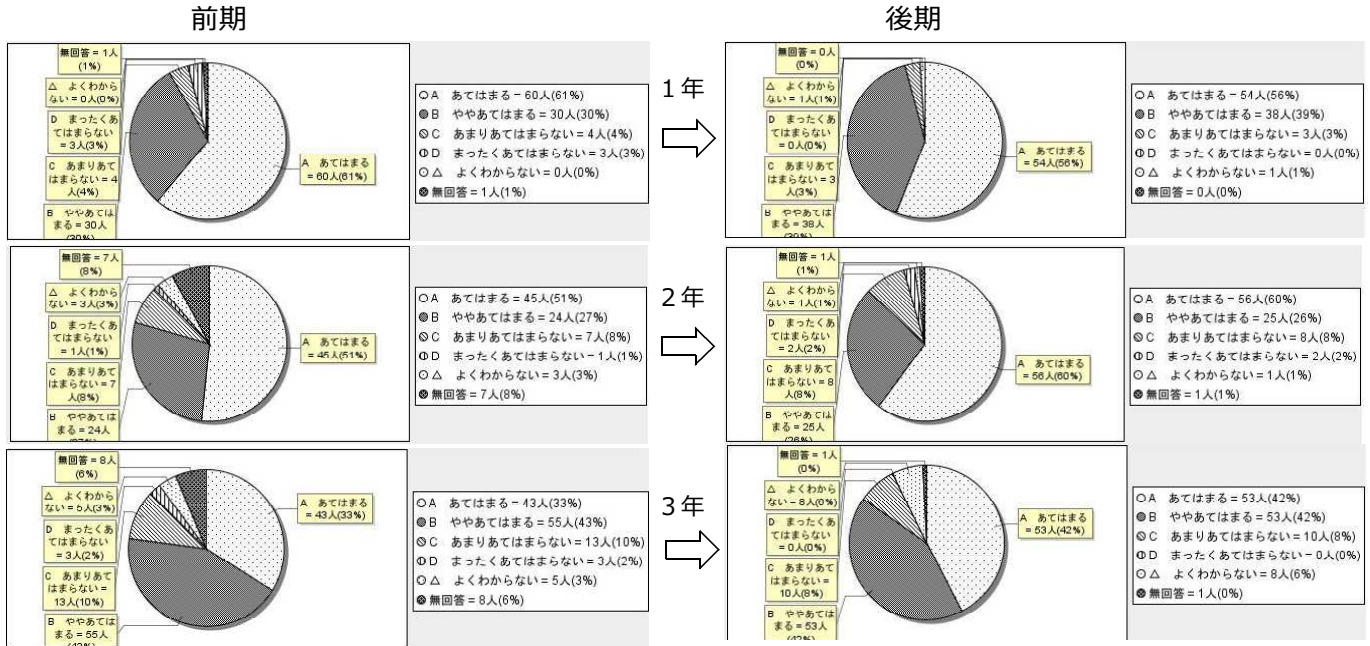


A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない  
D:まったくあてはまらない △:よくわからない

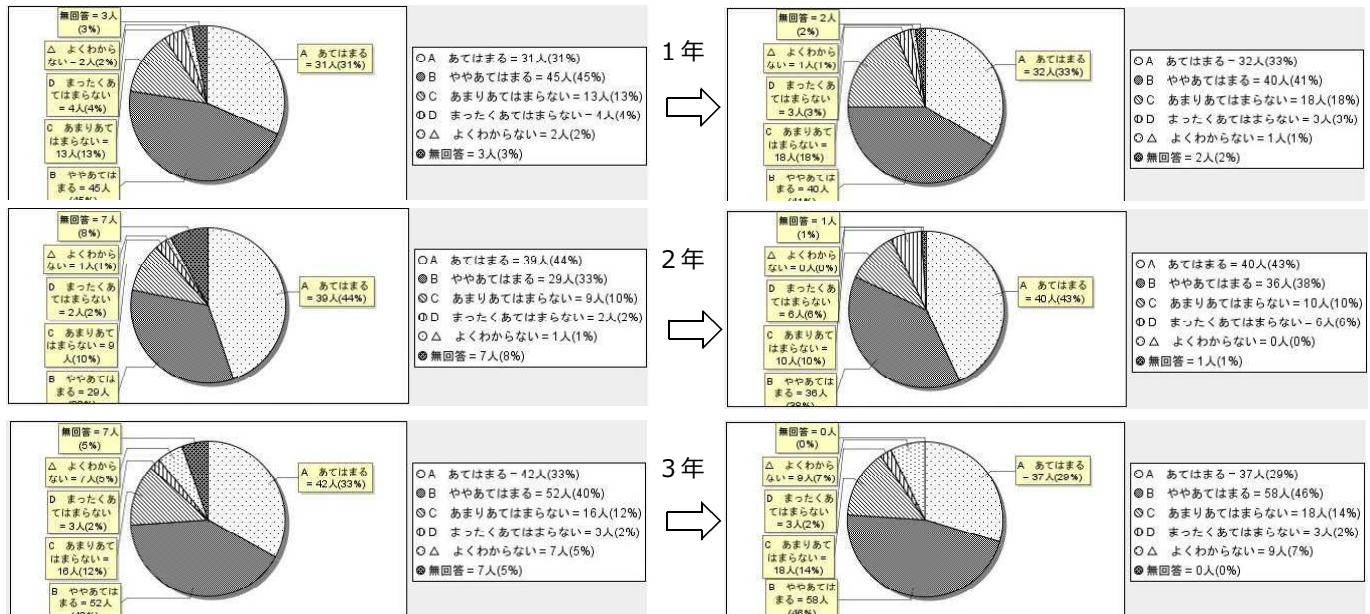
1 授業の中で、友達や先生と関わり合いながら学ぶことができた。

No.1



全学年でA+Bが8割を超えています。生徒は、関わり合っで学んでいると感じています。前期は、個別学習を中心に進めましたが、後期では、感染症対策を講じた上で、工夫しながら協働的な学びを確保してきました。生徒同士の考えを交流させる場面では、生徒の表情がいきいきとしていました。

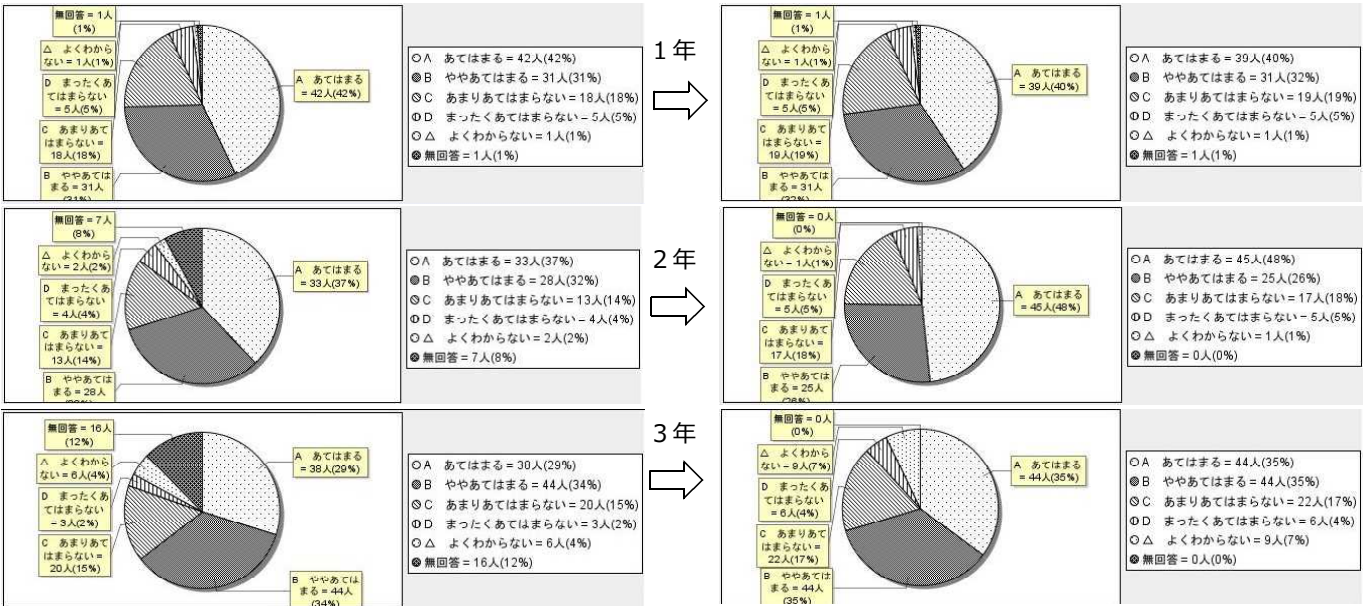
2 ノートは、学習の足跡がわかるように工夫して書くようにした。



今年度は、授業を通してどのような力を身に付ければよいかを明確にした授業づくりを目指し、学校全体で、日々の授業や研修を通して取り組みました。2、3年の後期で、A+Bの割合が高くなりました。授業のまとめとして、学んだことを整理し、分かったことやもっと知りたいことなどを自分の言葉でノートにまとめる「学習の振り返り」について重点的に指導しております。

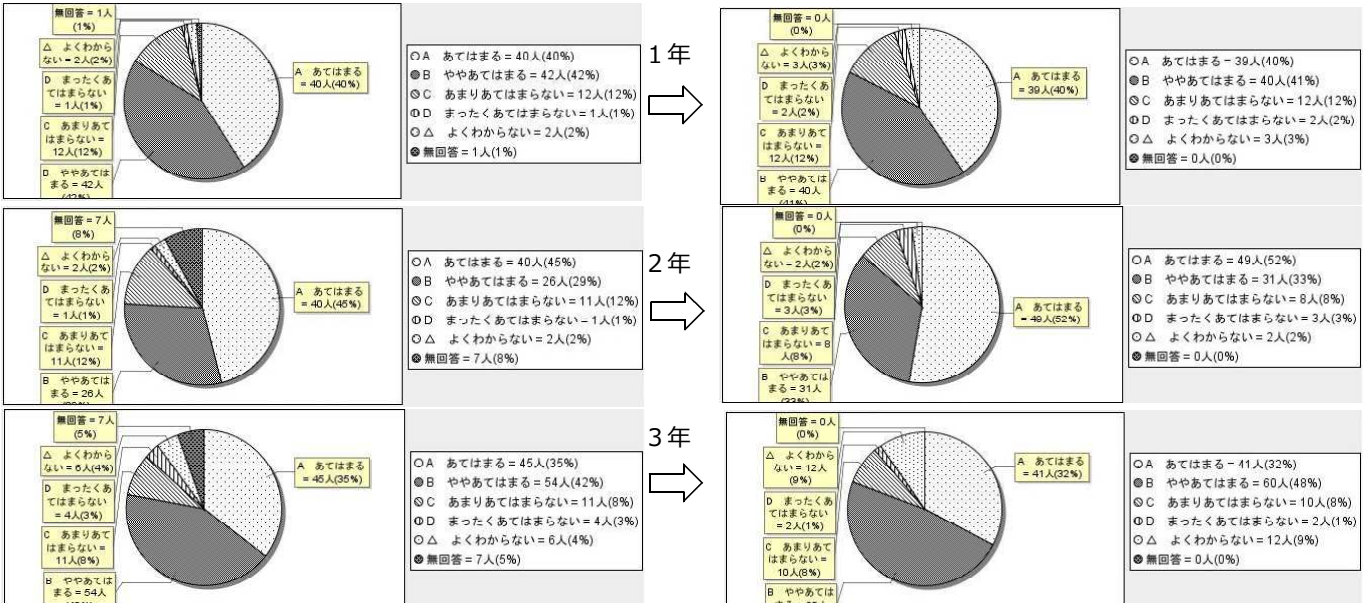
### 3 予習や復習など、家庭で学習に取り組んだ。

NO.2



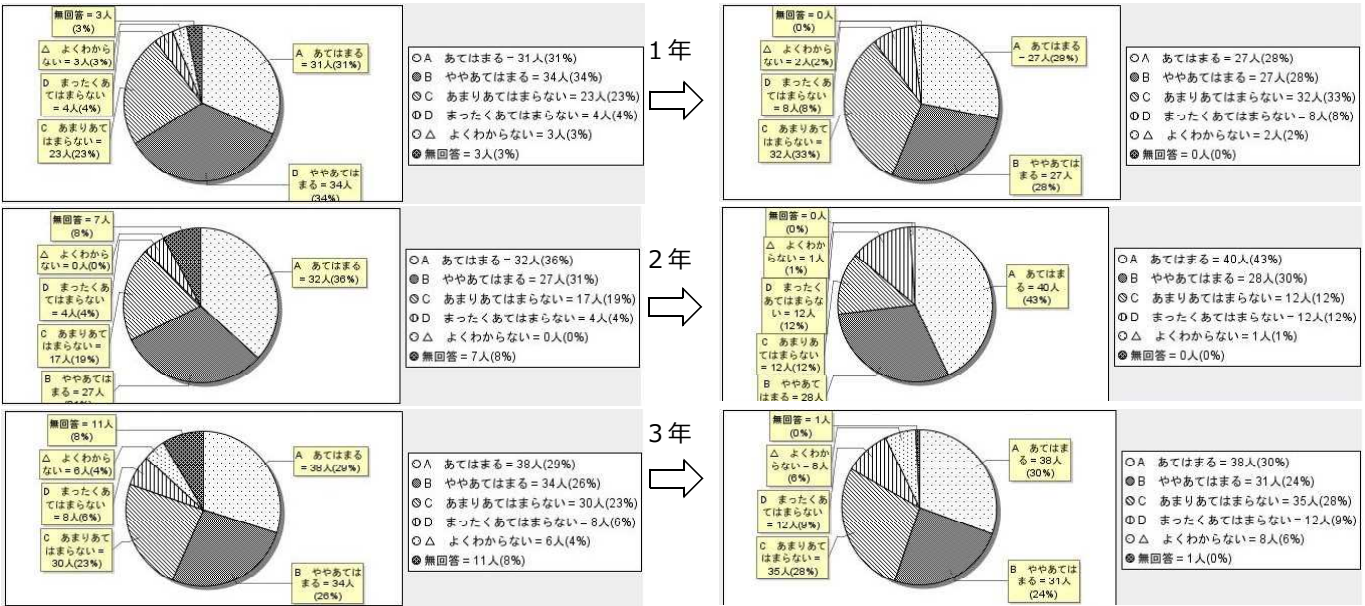
2・3年生は進路を意識した日々の取り組みにより、成果が徐々に表れ始めています。また、昨年度の結果と比べると、全学年10ポイントほどA+Bの割合が増えています。今後も、生徒に対する指導を引き続き行いながら、その結果（成果と課題）をお便りや面談等で保護者の方にお伝えしていきます。

### 4 道徳の授業では、自分と向き合いながら、生き方について考えることができた。



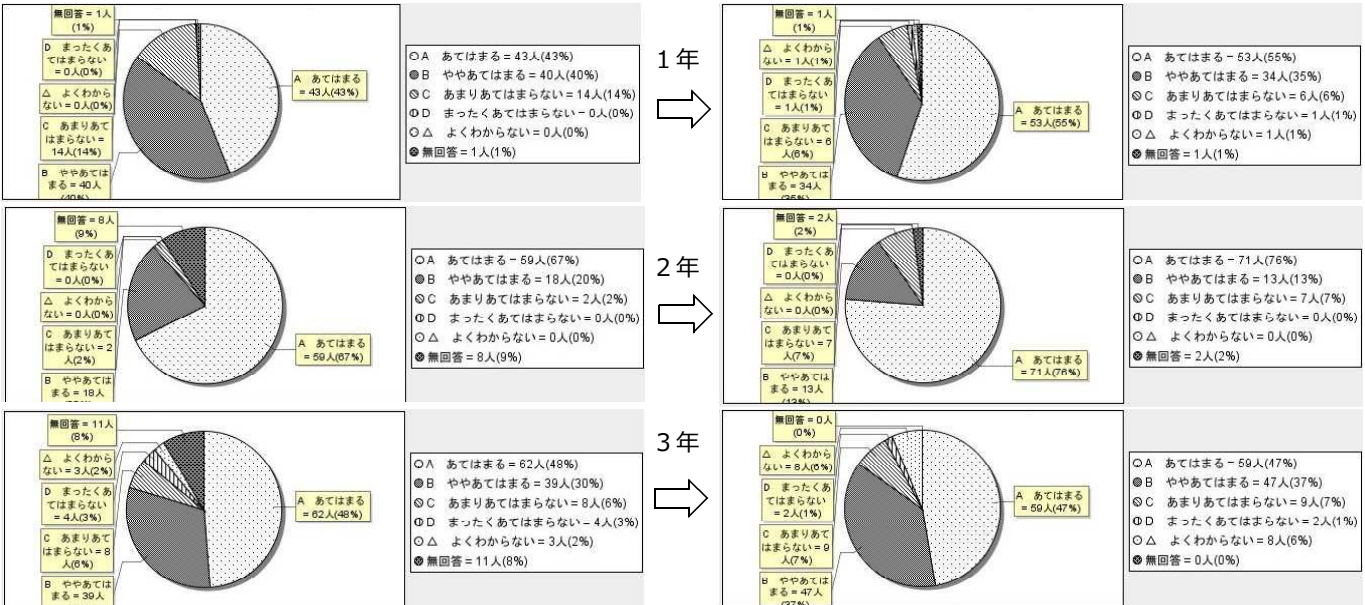
道徳科の教科書・ノートを活用し、毎時間の「特別の教科 道徳」の実践の効果が見られます。A+Bの割合が全学年で増加し、8割を越えました。小中一貫教育の取組として、道徳コーナーを統一し、互いの考えや学習の足跡が可視化できるようにしています。今後も授業を通して、生徒同士、生徒と教師で心の交流を行うとともに、自分の考えを伝え合う授業の展開を図っていきます。

5 進んで学校行事や生徒会活動、学級活動に取り組んだ。



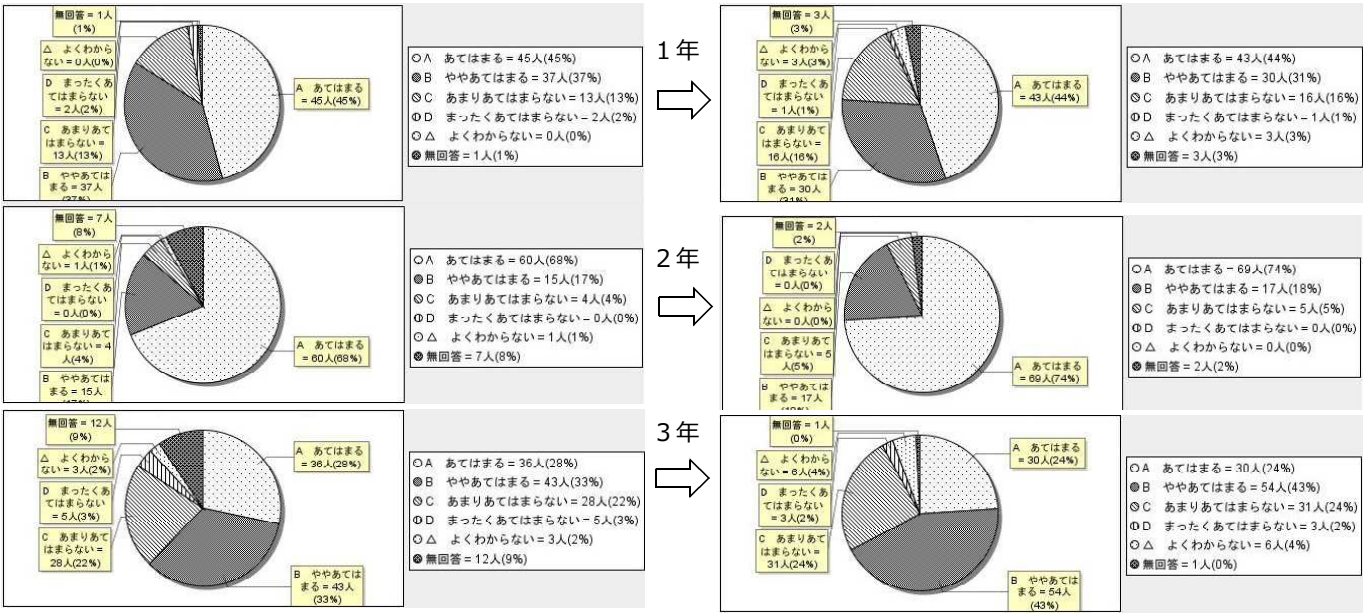
半数以上の生徒が肯定的な考えをもっていますが、体育祭、輝龍祭等の様々な行事が代替行事となり、生徒が想像していたものとは違う形になってしまったことで、昨年度より低い結果となりました。A、Bの意見の中には、制限された中でも工夫して実践することの大切さを感じ取った生徒も見られました。今後も生徒たちが主体となる学校行事の運営等を全職員で支援し、生徒主体の活動をさらに活性化し、活気のある学校づくりに取り組んでいきます。

6 時間を守って学校生活を送ることができた。(登下校を含む)



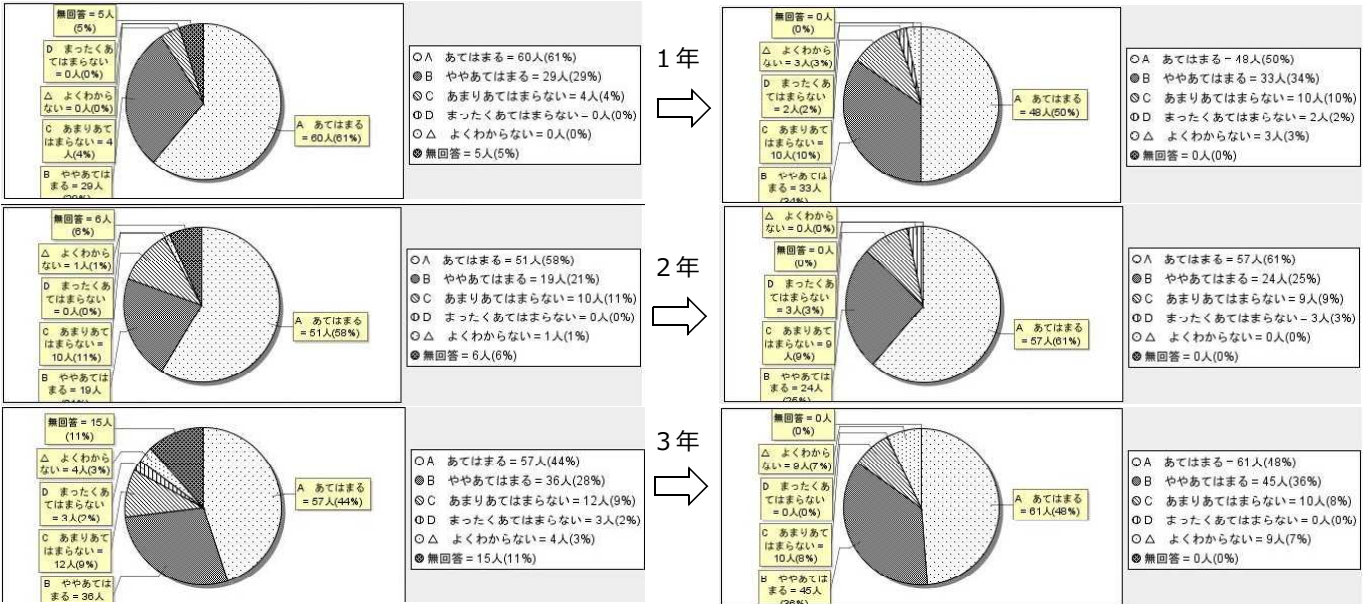
全ての学年でA + Bの割合が高くなっています。「時を守る」とについては、生徒も教師も心に留め努力している内容です。また、小中一貫教育の取組として、「2分前着席」を継続的に実践してきた成果が見られます。中根台中学校区のよさとして定着させていきたいと考えます。

7 黙働にしっかりと取り組むことができた。



小中一貫教育として小学校から取り組んでいる内容です。学年差が見られましたが、各学年毎に、学年生徒会で話し合ったり、生活目標に掲げたりしたことで、後期には肯定的な考えが増えてきています。環境が人をつくると言われます。掃除ができることは、その他の生活にも大きな影響を与えていきます。

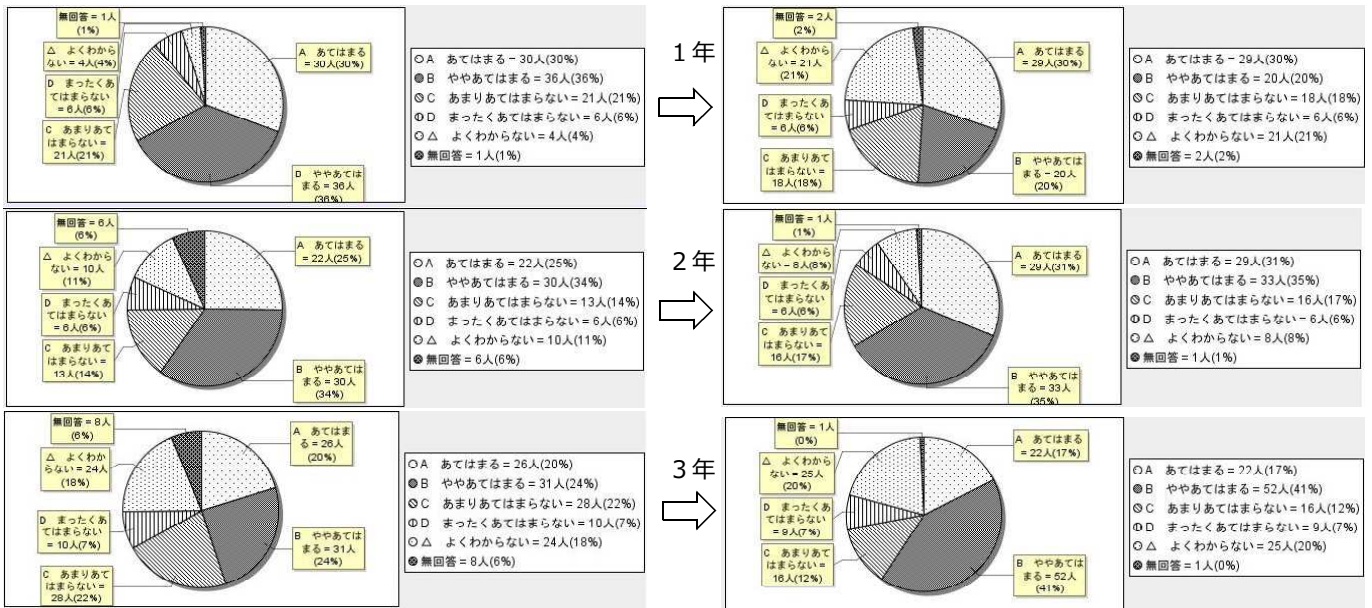
8 自分から進んであいさつをしたり、あいさつを返したりすることができた。



コロナ禍であっても、生徒自身はよくできていると感じているようです。保護者アンケート結果と比べると、A+Bの割合が10ポイント低くなっています。個人差や場面によってできたり、できなかったりすることがあったと思います。人間関係づくりの一步のとして「あいさつ」に加え、感謝の言葉なども積極的に伝えることができる生徒を増やしていきたいです。今後も全校で取り組んでいくとともに、教師自ら範を示し、一緒に気持ちのよいあいさつや声かけをしていきます。

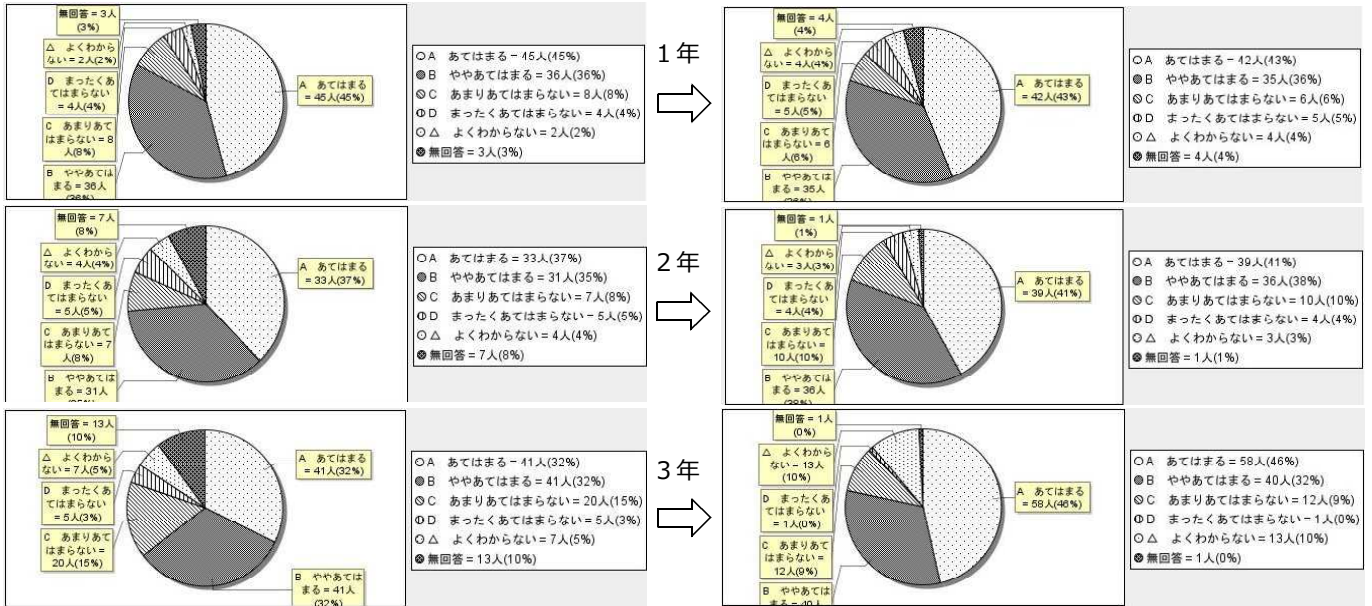
9 先生は、自分のことをよく分かってきている。

NO.5



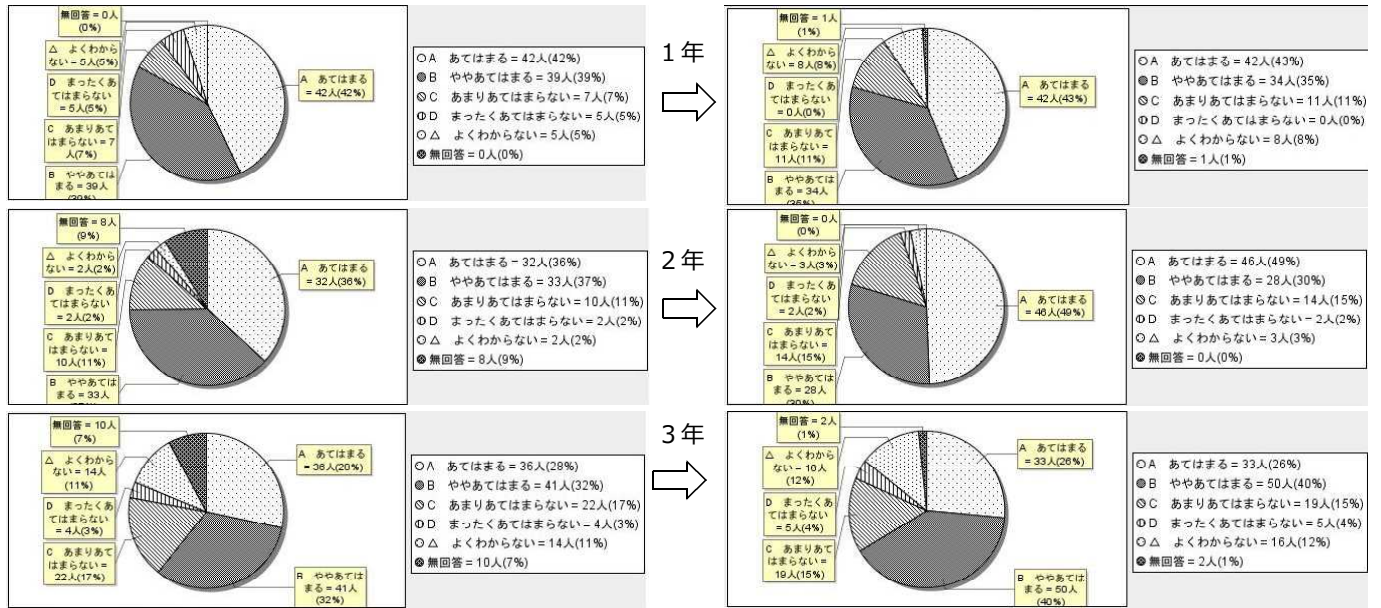
学年が進むにつれ、A + Bの割合が増える傾向が見られます。生活ノート等の活用や個人面談など、一人一人の生徒との対話の機会を確保しています。また、養護教諭やさわやか相談員、スクールカウンセラーなど、担任以外の立場の教職員も、生徒の悩み相談などに応じています。今後も生徒の話に耳を傾け、一人一人をていねいに理解していきたいと思ひます。

10 学校には自分の居場所があり、学校に行くことが楽しかった。



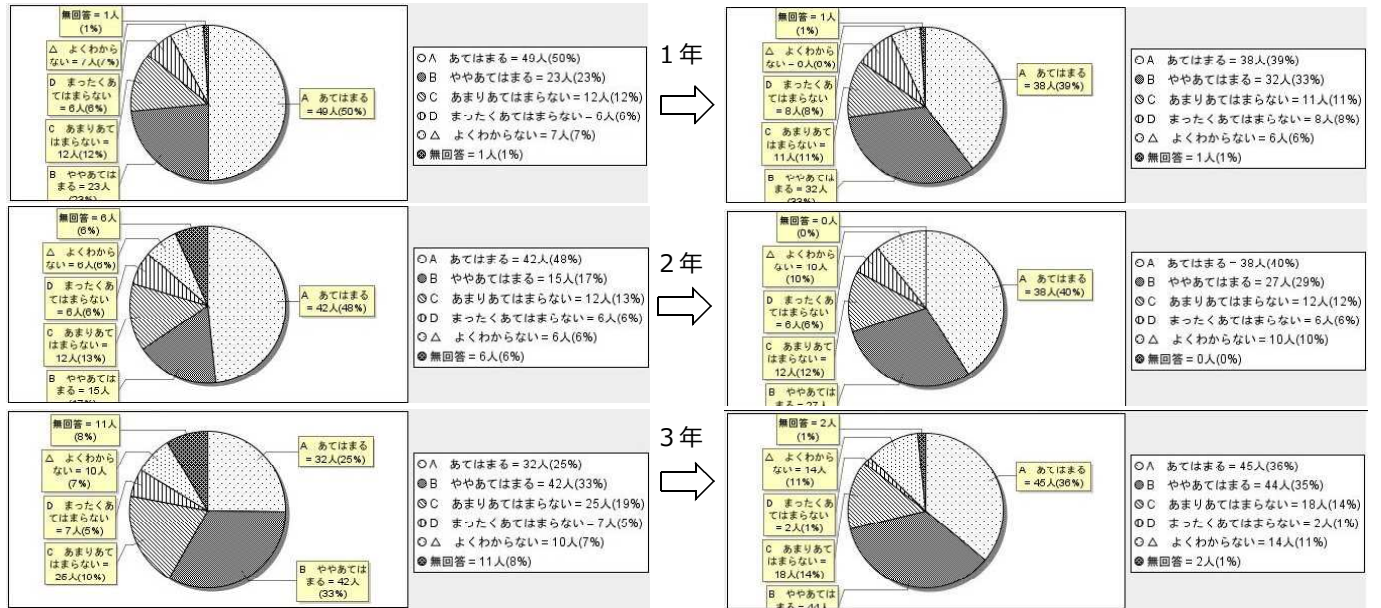
全学年で、A + Bの割合が増えました。日々の授業や学級での生活、行事等を通しての充実感を味わうことができましたと考えます。よいところを見つけて認め、それを周囲(学級・学年・家庭)に広めることを繰り返す行うことで、生徒の自己肯定感が高まっています。教師は、これからも生徒のよさを引き出し、それを認めたり褒めたりしながら、居場所づくりに努めていきます。

11 困っている友達を助けたり、言葉かけをしたりすることができた。



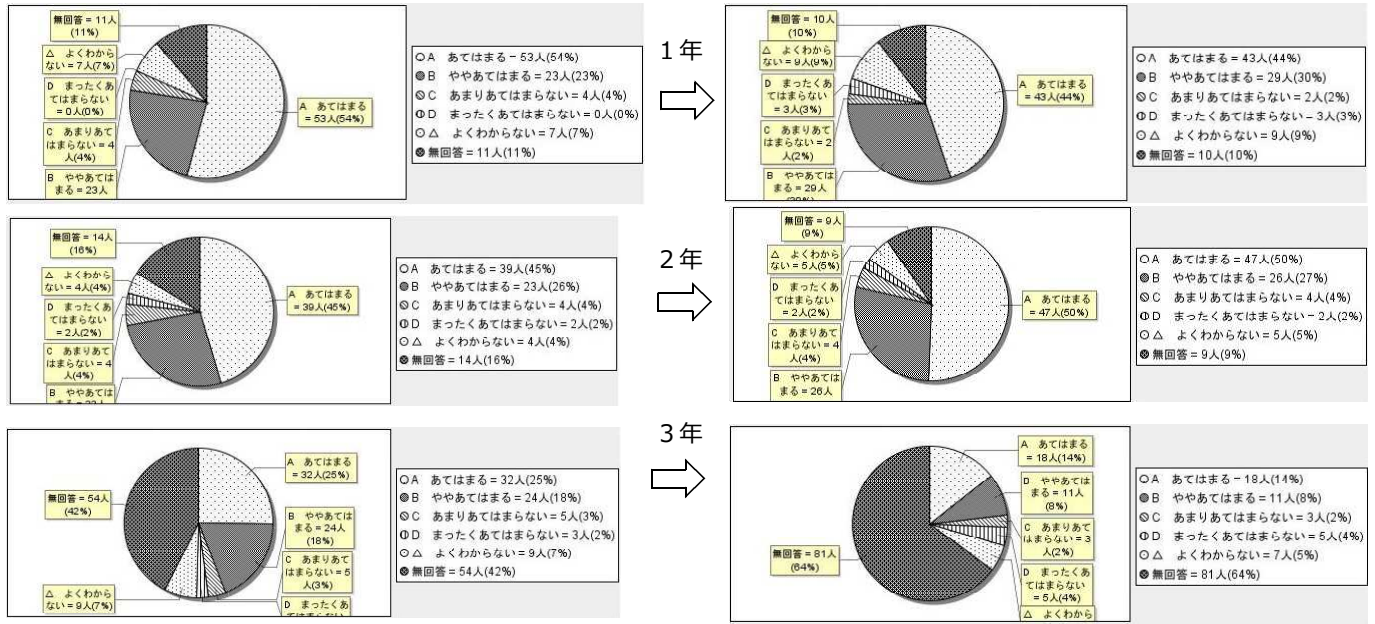
全学年で、Aの割合が増えました。今日のMVPやキラリさんなど、全学級で互いのよさを認め合う時間を設定しています。普段の生活の中で受容的な雰囲気をつくっていくとともに、生徒たちが学校生活で一番多くの時間を費やす授業の中で、協働的な学習を展開し、好ましい人間関係づくりを継続していきます。

12 夢や目標に向かってがんばっていることがある。



全学年、約8割の生徒が、部活動や進路等について、明確な目標をもち努力していることが分かりました。1年生は、学校生活にもすっかり慣れてきましたが、目標を意識して生活する生徒とそうでない生徒に分かれてきています。授業や部活動、学校行事等で、目標・実践・振り返りのサイクルを確立させていきたいと考えます。

### 1.3 部活動に進んで取り組み、心も体も成長している。(入部者のみ)



3年生は部活動の時間が短かったため、A + Bの割合が控えめでした。1・2年生は、様々な制限の中でも意欲的に部活動に取り組んでいます。特に2年生は、後期になり部活動の練習時間が短くなっているにもかかわらず肯定的な考えの割合が高くなっています。生徒のやる気と教師の指導がかみ合った結果だと考えます。部活動は、中学校生活の中で大きな意味をもつ活動です。今後も、短い時間の中でも効率的・効果的な活動となるよう、学校全体で支援していきます。